

大人が絵本を 第85回 絵本の世界に



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

子育て中の親子間交流と、育児支援を 受ける機会を奪う「緊急事態宣言」

新型コロナウイルスがまん延して2回目の夏、ご先祖さまをお迎えするお盆に親族が集うことを控え、里帰りすら自粛してガマンの生活を送る私たちに、新たな自然災害は容赦なく荒れ狂うように襲ってきました。お盆週間に豪雨災害を受けた直後、福岡県は4回目の緊急事態宣言に入ったのです。

その翌日、ビブリオキッズに来館されたお母さまは、「児童館も動物園も公共図書館も閉まって行き場がなくなった。両親もそう若くないので、実家へ行くのもためられる。子どもたちとどこにも行けない」と、3歳と生後9か月の小さな子を抱えて悲痛な声を上げられました。

コロナ禍でも緊急事態宣言下でもビブリオキッズは、空気除菌機の設置や絵本の除菌、利用時間制限など感染防止対策を徹底した上で毎日開館し、行き場を失った親子にひと時の憩いを提供しています。

ビブリオ通館が日課のTくんは、最初の緊急事態宣言のとき2歳2か月で、ビブリオキッズが臨時休館になって利用できないことを理解できませんでした。「2階まで階段を上るけれど、室内には入れない。階段に座ってボーッとしていました」と、お母さまから伺いました。

最初の宣言が解除されて、またいつものように利用できるようになった初日のTくんの嬉しそうな顔をいまだに忘れられません。お母さまと絵本を読んでいるのですが、合間合間に満面の笑顔でカウンターにいる私の顔を見ては、目が合うと照れ笑いをして絵本に戻る、この繰り返しでした。いつもの生活行動が戻ってきて嬉しかったのでしょう。待ち

わびた空間に戻れて、興奮したのでしょう。

以後、「緊急事態宣言」が発令されても、「休館」措置を取らずに、小さなお子さまとその養育者に息抜きを提供し、待たなしの緊急事態下にいる親子の育児支援に当たっています。

いいね！ 父と息子の読みあい

先ほどのTくんは生後8か月から会員となり、その日からビブリオは生活の一部となりました。それは3歳になって幼稚園に入園してからも変わりません。変わったことと言えば、お母さまと2人で来館していたのが、新型コロナウイルスが出現してからは、隔週に1回くらいのペースでお父さまと来館するようになったことです。

お母さまとゆったり読みあうTくんは、お父さまとの読みあいでは臨場感とスピード感あふれる絵本の世界に誘われます。周りのお母さまたちから「パパのおはなし、いいね」と、うらやむ声もあがります。読み語りだけでなく、お歌も飛び出して、その場が賑やかになるのです。昔話『金太郎』の力強いお話なんて、パパ読みにぴったりです。金太郎がまさかりをかついでクマにまたがると、石原和三郎作詞の「金太郎」¹⁾の歌シーンです。

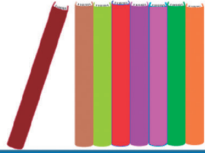
『金太郎』
田口智子 絵
(小学館)



お父さまが、「♪ まさかり かついで きんたろう」と一度歌ってから「Tくんもいっしょに、ハイ！」とけん引すると、父子で1番の合唱です。その後、動

手にするときは！

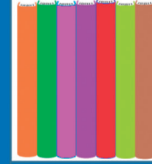
没頭していますか？



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



物たちと相撲をとるシーンでは、2番「♪ あしがらやまの やまおくで～」と続きます。なかでも、「みあって みあって。はっけよいのこった」では、さながら行司に扮し、臨場感たっぷりです。

不要不急の外出自粛であっても、親子の読みあいの時間、そして、読みあいを傍聴する空間だけは、息苦しさや不安感をフッと忘れて、ほのぼのとした雰囲気に和みます。一番楽しんでいるのは、育児中のお父さまのようにも見えます。いいえ、Tくんもノリノリで歌を歌い、「ノコッタ～」と金太郎になり切っているのです。すなわち、このときTくんの脳と心はすくすくと育まれているのです。



「絵本の世界に没頭する」

4回目の緊急事態宣言に入ったときに到着した雑誌「月刊クーヨン」(クレヨンハウス)2021年9月号の特集記事で、「親子で絵本を読むことは脳の発達のベースをつくります」との見出しがありました。私たちが日常的に発信していることです。「親子で絵本を読むことは、乳幼児期に欠かせない、親子で愛着を育てる手段としても有用です」これもしかりです²⁾。

注目したのは、脳科学者の細田千尋氏が述べている「コミュニケーションのひとつとして『絵本の世界に没頭すること』が大事」という言葉です²⁾。「入り込む」や「冒険する」のワードはよく使いますが、小説読書時の表現として使う「没頭」を絵本読みで表現することがなかったため、「なるほど！」とTくん父子の『金太郎』が脳裏に浮かび、共感したのです。

コロナ禍の中「絵本の世界に没頭すること」は、家族以外の人との交流を少なくしている乳幼児の視覚と聴覚に訴えることになり、脳の発達のベースとなる部分に刺激を与えているのです。それだけでなく、

親子のコミュニケーションを促進し、愛着の形成にも効果的なのです。特に、『金太郎』や『桃太郎』など男性の声で面白味の増す昔話を読みあうと、父と子の愛着形成にも絶好のツールとなるのです。今、自宅で簡単にできる、親子の発達に良好な遊びというわけです。

さらに、米國小児科学会の表明も記し、「読み聞かせや音読が子どもの発達全般に非常にいい影響をもたらすことを認め、病院の小児科などでReach Out & Read³⁾ ※プログラムを導入し、乳幼児に積極的に絵本の読み聞かせを勧めている」と紹介しています²⁾。

ビブリオキッズ&ベビーでは、2012年の創館当初から館内での親子の読みあいを推奨してきました。時に「図書館」という施設の一般的マナーにならない、小声で読むお母さまや、恥ずかしいからと赤ちゃんにボソボソと読んでお母さまへ、積極的に一定の声に出して読むことの大切さをお伝えしています。

全国の小児歯科医院から、コロナ禍の今こそ大切な発信をお願いいたします。



お姫さまと、悪いお妃に没頭する脳

Tくんとお友達のYちゃん親子の絵本遊びも楽しいものです。今年4歳のYちゃんが3歳くらいから没頭したのは、『シンデレラ』と『白雪姫』の世界です。ビブリオの時計がお昼12時を指す5分前に



『シンデレラ』
ヤーコブ・グリム、
ヴィルヘルム・グリム 作
那須田淳 訳
北見葉胡 絵(岩崎書店)

※：幼児の育ちを後押しする、本を用いたケアプログラム。幼児の発達全般にいいこととして米國小児科学会でも承認されており、とくに家族と一緒に「声に出して本を読むこと」を推奨している。



なると、「大変、大変！」と唱えながら慌てて駆け出すのです。12時の鐘が鳴り終わると魔法が解けて、汚れた服を着た女の子に戻るからです。このときのYちゃんは、シンデレラに没頭しているのです。その前にもお膳立てがあって、靴下を片方だけ脱ぎ捨てていて、ちゃんと「ガラスの靴」を残していくことも忘れていません。

「シンデレラ」の世界では主人公のプリンセスに没頭するYちゃんですが、「白雪姫」では“悪いお妃”になりきるのです。毒リンゴを食べて眠ってばかりの白雪姫よりも、毒リンゴを渡す役の方に動きがあって魅力的だったのでしょうか。来館のたびお母さまに、赤いシフォンスカーフでリンゴを作ってもらい、司書のところにそーっと持って来てはやさしく「どうぞ」と言って、受け取った途端に「毒リンゴだあ！」と言って逃げるのです。しかし、その後は“悪いお妃”から一変して召使になって、毒リンゴを食べて気を失っている白雪姫役の私たちの背中をポンと叩いて、毒リンゴを吐かせて生き返らせるところまでがシナリオです。

Yちゃんは、模倣遊びだけではありません。ちゃんと『シンデレラ』も『白雪姫』もお母さまと読みあいます。ときに、絵本を読んでから遊ぶ日があれば、先に「毒リンゴ」のこともあります。毒リンゴが先でも、絵本だけはすでにテーブルに出しているのです。

とってもステキなのは、Yちゃんのお母さまです。模倣遊びの相手にもなり、その合間に抜群のタイミングで絵本を差し込み、今し方まで“悪いお妃”だったのに、『こんとあき』の世界も、『はじめてのおつかい』（ともに福音館書店）の世界も、すぐに没頭するのです。今のお気に入り、こみねゆら氏の

『にんぎょうげきだん』です。この「にんぎょうげきだん」にも、お客さんとして指定席に案内されるので、お母さまと一緒に、Yちゃんの一人舞台を鑑賞しています。

先の人生もやさしく照らしてくれる絵本

絵本の世界に没頭するYちゃんは、1歳くらいからそのセンスを披露していました。赤ちゃんのときからおはなし会に参加し、絵本に親しんできたことよりも、Yちゃんの感性が絵本の世界に「没頭」させているのだとあらためて思います。

食べもの絵本を読むと、参加する1～3歳児に一人ずつ「どうぞ」と模倣で渡すのですが、みんなが「あむあむ」する中、Yちゃんは食べることなく泣き始めるのです。また、読み手が読んでいる絵本の世界に没頭しても、次に手遊び歌が始まると泣き出すのです。Yちゃんの世界というペースがあるのでしょう。

私立麻布中学・高校国語科教諭の中島克治氏は、「子どもを包む絵本の世界に正解はなく、意味や理由より、非言語的で想像する余地に溢れ、そこに、ことばの豊かさが重なることで、子どもの全感覚に働きかけて揺らしてくれる」と言いますが、Yちゃんはまったくそのとおりだと思います⁴⁾。「意味や理由より非言語的で想像する余地に溢れた」Yちゃんは、大人が発する絵本の豊かなことばが重なることで全感覚に働き、揺さぶられているのです。だから、それを全身で表現しているのでしょう。「そういった絵本の時間を乳幼児期にもつことは、先の人生もやさしく照らしてくれるはずです」との中島氏のことばをYちゃんのお母さまへお伝えしました。

皆さまの歯科医院でもお口の健康と合わせて、脳と心の発達を促す支援として提案してみてください。

今、大人が絵本を手にするときは！

親子の愛着が、幼児期の対人関係発達の基盤にな



『にんぎょうげきだん』
こみねゆら 作
(白泉社)



ることがマスメディアでよく発信されるようになりました。この発達論に絵本を活用して、脳の発達ベースを形成しましょうと提起しているのです。

スマホと脳の関係について、長期的な研究をされている川島隆太氏は、読みあいを通して大人が子どもに関わり、コミュニケーションをとることで、「社会情動的スキル」「非認知能力」の高い子が育てられるため、たとえ文字が読める幼児期の後期であっても、さらに児童期であっても、読みあいという親子のコミュニケーションは有用と訴えます⁵⁾。

この重要性についてはビブリオ着任以前より、多くの大人に伝えてきました。そしてビブリオで「大人が絵本を手にするときは!」と、いつも述べていることです。人と人との間に距離が取られ、限られた人とだけの交流になったコロナ禍の今、家庭での読書の大切さを訴えるものです。全年齢の子どもたちの、今しかない発達期の奪われた体験を補うツールだからです。

ビブリオキッズのTくん親子やYちゃん親子は、絵本に没頭する体験を自ら楽しみ、すなわち、脳と心の発達を促進しているのです。コロナ禍では特に、子どもの年齢に関係なく、家族で絵本や童話、小説を読みあう時間を楽しむときなのです。

児童期に、連続読みあい小説!

本連載でたびたび登場してきたHくんは、生後4か月でビブリオ会員の仲間入りをしてから、新時代の絵本と子どもの関係を教えてくれる、私の「先生」です。読書の発達は、0歳から小学2年生の現在まで、実年齢よりも上に位置する、3きょうだいのお兄ちゃんです。

2年生になって環境問題に関心を持つようになりました。「地産地消ってなに?」「生態系ってなに?」、Hくんの「なぜ? なに?」に、ご両親は決してインターネットを使うことなく、ビブリオに来館して適した本を尋ねられます。このときは『ジュニア学研の

図鑑 地球の環境』を提示し、合わせて自然エネルギーを自給した実話に基づく絵本『風の島へようこそーくりかえし つかえる エネルギー』(福音館書店)をお貸ししました。

この絵本をお母さまと繰り返し読みあったHくんの探究心は高まり、佐賀県玄海町の発電風車を見に行ったというのです。もちろん、家族だけで車に乗り、車内から観察して戻って来たという自学家族の姿です。

そのお話をうかがって、高学年向けの読みもの『夢の発電って、なんだろう?』(講談社)を次にお貸ししました。小学2年生が一人で読むには難しいので、お母さまと一緒に読む“親子連続読みあい小説”の提案をした上です。難度が高く読み進めるのにも時間を要したようですが、しかし「これ、どういうこと?」は湧き、親子で調べながら読了しました。Hくんのご両親は、3きょうだいともに読みあいを通して一人ひとりに深く関わり、コミュニケーションを高く維持しているのです。3きょうだいそれぞれの「社会情動的スキル」「非認知能力」を育てているモデルケースです。

おうちでも歯科医院でも絵本に没頭しましょう。



文献

- 1) 田口智子 絵: 金太郎, 小学館, 東京, p.4-6, 2009.
- 2) 細田千尋: 絵本の時間が「脳にいい」のは本当です, 月刊クーヨン 26(9), pp.14-19, 2021.
- 3) Reach Out & Read GREATER NEW YORK: When children learn to read, their own stories begin. Reach Out & Read HP <https://reachoutandreadnyc.org>
- 4) 中島克治: 数値化できない ころを育てる絵本の力, 月刊クーヨン 26(9), pp.38-43, 2021.
- 5) 川島隆太 監修: 最新脳科学でついに出了結論「本の読み方」で学力は決まる, 青春出版社, 東京, p.137-159, 2018.